

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 6 月 12 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科（博士一貫課程）博士課程学生
氏名	大塚亮真
<b>1. 派遣国・場所</b> （〇〇国、〇〇地域）	
宮崎県串間市幸島	
<b>2. 研究課題名</b> （〇〇の調査、および〇〇での実験）	
幸島実習(WRC 主催)/野生動物・行動生態野外実習	
<b>3. 派遣期間</b> （本邦出発から帰国まで）	
平成 28 年 5 月 4 日 ～ 平成 28 年 5 月 12 日（9 日間）	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> （〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏）	
京都大学野生動物研究センター幸島観測所 鈴木氏	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> （研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）	
<p>今回は幸島実習に参加し野生のニホンザル(Macaca fuscata)とウマ(Equus caballus)の行動観察を行うため、宮崎県串間市の幸島と都井岬を訪れた。幸島は日本の霊長類学発祥の地と言われているところで、訪れることが出来てとても嬉しかった。実習参加者は事前にそれぞれの調査テーマ・方法を決めて、幸島で調査を行い、その成果をまとめて発表した。</p> <p>【日程】</p> <p>5月4日：出町柳から電車とバスで大阪南港。大阪南港からフェリーで鹿児島県志布志港へ。                      5月5日：志布志港から宮崎県串間市へ移動。買い出しのあと幸島観測所へ。                      5月6日：幸島へ。地図とコンパスを持って山歩きの練習。                      5月7日：ニホンザルの行動観察                      5月8日：ニホンザルの行動観察                      5月9日：都井岬にて野生ウマの観察                      5月10日：データ解析、発表                      5月11日：掃除、片付けのあと志布志港へ電車で移動。志布志港からフェリーで大阪南港へ。                      5月12日：大阪南港から電車とバスで出町柳へ</p> <p>今回の幸島実習では「観察者と観察個体（幸島のニホンザル）との関係について」をテーマに設定した。実習参加者のうちの1人のA（イニシャルとは無関係）さんに協力してもらい、Aさんのニホンザルの行動観察に同行し、両者の関係性について距離に着目して調査を行った。個性によるAさんに対する許容度の違いを近距離の接近頻度で評価しようとし、Aさんに対する行動やAさん自身の観察方法の変化なども記録した。Aさんと観察個体のとの関係は観察時間内でも少しずつ変化していることや、観察個体の個性、観察場所によっても変化することがわかった。</p> <p>私は京都大学農学部出身で現在は京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に在籍している。調査として野生動物の行動観察を行った経験は、学部一回生の頃に参加したポケゼミ（嵐山のニホンザル）と同じく学部一回生の夏休みに参加したヤクザル調査隊（屋久島のニホンザル）だけであった。そんな自分にとって、自分で調査のテーマを設定し、方法を決め、実際に行動観察を行ってデータを収集・解析し、成果を発表するという経験が出来たことはとても貴重なことであった。特にテーマの設定からデータ収集の方法までの過程に関して、先生方や実習参加者から多くのことを学ぶことが出来た。</p> <p>正直、今回の実習における私の調査研究は決して優れたものではと言えない。しかし、なぜ優れていないのかが少しでも明らかになったことが今後の研究に繋がると信じている。仮に、人とゴリラの関係に焦点を当ててやや文系よりの研究を行うことになったとしても、野生動物の行動観察の経験はきっと役に立つだろう。フィールドで得たデータを、数値化しグラフ化する技術については野生動物研究から学べるのがとても大きいと感じている。それだけでなく、例えばゴリラの食害をテーマにして、ゴリラが畑の作物を食べる様子を観察する場合などでも今回の行動観察の経験が生きてくるはずであるから、自分のメインの研究と平行して、ここからさらに学習を続けていきたいと思う。</p>	
<p>写真（必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



おっぱいを飲むニホンザルのコドモと母親



正面から



グルーミング中



森の中でニホンザルを追う



おっぱいを飲むウマのコドモ



横になるウマのコドモ

6. その他 (特記事項など)

今回の実習へは PWS の協力により参加することが出来ました。実習期間中、ご指導していただきました中村先生、杉浦先生、鈴木さんには大変感謝しております。また一緒に実習に参加した学生のみなさんにも感謝しています。